

「だいち」(ALOS) データを活用した(社)日本ユネスコ協会連盟とのプロジェクト

(独)宇宙航空研究開発機構は、陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)キャンペーンの一環として、(社)日本ユネスコ協会連盟(渋谷区恵比寿、会長・児島仁)と共に、同連盟が推進する「世界遺産活動」および「ユネスコ世界寺子屋運動」における教育・研究・広報活動を支援するため、下記2つのプログラムから構成される、ALOS観測データを役立てていくALOSユネスコ活動支援プロジェクトをスタートいたします。

「だいち」(ALOS)は、2006年1月19日に打上が予定されている最大2.5mの分解能をもった高性能な地球観測衛星で、「地図作成」「地域観測」「災害状況把握」「資源探査」といった分野での活躍が期待されています。プロジェクトの推進にあたっては、ALOS「だいち」キャンペーンプロジェクトパートナーである(株)電通(港区東新橋、代表取締役社長・俣木盾夫)の他、JAXA地球観測利用推進センターおよび財団法人リモート・センシング技術センターと連携することとしています。

本プロジェクトは打上から1年間の期間限定プロジェクトとしてスタートをしますが、状況によって延長することも検討しております。また今後、民間企業サポーターのご協力により、広く国民の皆さまに世界遺産活動や世界寺子屋運動への理解、参画呼びかける広報活動も展開していく予定です。

世界遺産活動支援プログラム

世界の貴重な文化遺産や自然遺産を次世代に受け継いでいくため、1972年に「世界遺産条約」(世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約)が採択されました。現在(2006年1月)812の世界遺産が登録されています(うち、日本の世界遺産は13遺産)。

ALOSユネスコ活動支援プロジェクトでは、(社)日本ユネスコ協会連盟が推進する世界遺産の保全活動において、研究材料や普及啓発活動の材料としてご活用いただけるよう、宇宙(ALOS)からの高解像度写真をご提供していくものです。2006年春季からのスタートを目標として、アジアの危機遺産や日本の世界遺産などを順次リサーチしていく予定です。

「ユネスコ世界寺子屋運動」支援プログラム

世界には学校に行くことができない子供たちが1億400万人いると言われています。「ユネスコ世界寺子屋運動」はそうした子供たちや大人に対し「学びの場＝寺子屋」で読み書きや算数を学べるよう教育の支援をする運動です。2006年1月現在、409件、約75万人が寺子屋で学ぶことができました。

ALOSユネスコ活動支援プロジェクトでは、(社)日本ユネスコ協会連盟との連携により、アジア域を中心に、対象とする寺子屋(学校)を1～2ヶ月に1校のペースで設定。その学校を中心にした宇宙(ALOS)からの高解像度写真ポスターを教育材料として提供し、母国やアジア、地球を知るきっかけとしてもらおうという試みです。2006年秋季より、順次開始していく予定です。

【ALOSに関するお問い合わせ】 宇宙航空研究開発機構(JAXA)産学官連携部 03-6266-6464(上村、岩本)

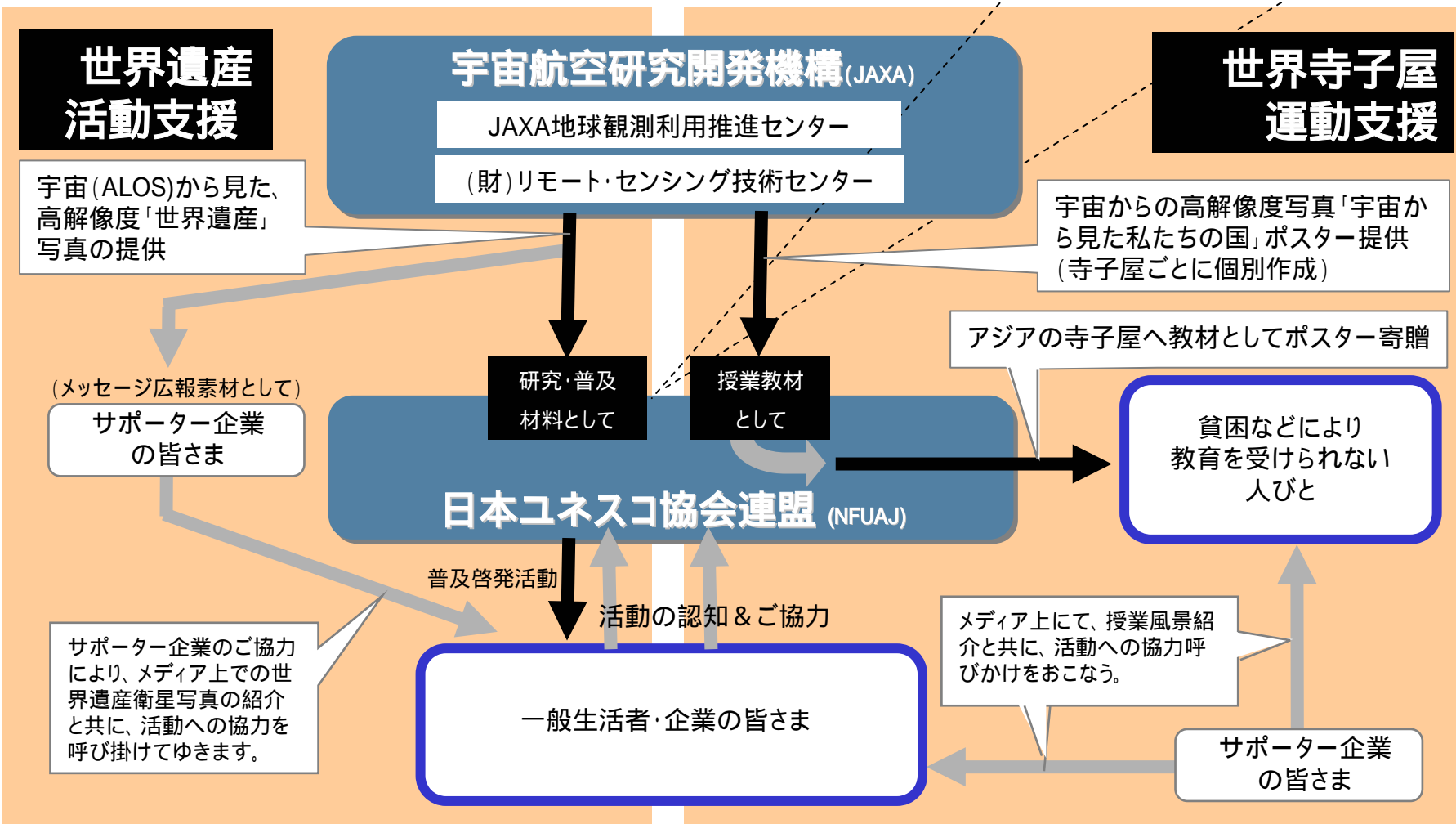
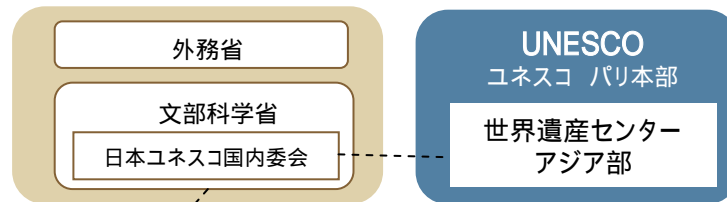
【世界遺産、世界寺子屋に関するお問い合わせ】 社団法人日本ユネスコ協会連盟 教育文化事業部 03-5424-1121(岩本、坂巻、寺尾)

【広報、企業サポーターに関するお問い合わせ】 株式会社電通 プロジェクトプロデュース局内ALOSプロジェクト事務局 03-6216-8029(田中、山崎)

ALOSユネスコ活動支援プロジェクトの枠組み

ALOSからの高精細写真を活用した2つのプログラムを展開を予定しています。また、キャンペーンパートナーである電通、サポート企業のご協力により、主に広報的なご支援をいただきながら、活動への理解・協力の輪を広げてゆきたいと考えております。

ALOSキャンペーンパートナーである電通がプロジェクトの推進をサポートします。



世界遺産とは

世界遺産は、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと世代を越えて継承されてきた地球が共有する宝物です。ユネスコは1972年「世界遺産条約」を採択し、貴重な文化遺産や自然遺産を次の世代に受け継いでいくための国際協力の枠組を創りました。そこには、国境という概念はありません。自国の文化と歴史を愛することは他国の文化と歴史を理解し、尊重することへとつながっているからです。

文化遺産、自然遺産、複合遺産 - 現在、世界812の世界遺産が登録

文化遺産

優れた普遍的価値を持つ
建築物や遺跡および
文化的景観など

自然遺産

優れた価値を持つ地形や生物、
自然景観などを有する地域

複合遺産

文化と自然両方の要素を
兼ね備えているもの

2005年7月現在、世界遺産リストに登録された文化遺産は628、自然遺産は160、複合遺産は24の総計812。日本では、自然遺産の「知床」の登録が認められ、結果、13件（文化遺産10、自然遺産3）の世界遺産が登録されています。

アジアの危機遺産(一部)

バーミヤン渓谷の文化的背景と古代遺跡群(アフガニスタン共和国)、バムとその文化的景観(イラン・イスラム共和国)、コルディリェーラの棚田群(フィリピン)、アンコール(カンボジア王国)の4地域を本プログラムの対象として想定しています。

日本の世界遺産

法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、屋久島、白神山地、古都京都の文化財(京都市、宇治市、大津市)、白川郷・五箇山の合掌造り集落、原爆ドーム、厳島神社、古都奈良の文化財、日光の社寺、琉球王国のグスク及び関連遺産群、紀伊山地の霊場と参詣道、知床
(2005年12月現在、13地域)

ユネスコ世界寺子屋運動とは

地球には働かなければならなかったり学校が近くになかったりして学校に行けない子どもが1億400万人もいます。そして学校に行けず大人になり、文字の読み書きができない人が7億9900万人もいます。世界寺子屋運動は、このような子どもたちや大人が「学びの場 = 寺子屋」で読み書きや算数を学べるように、教育の支援をする運動です。国連はユネスコの主導により、「国連識字の10年」(2002~2013年)を定め、すべての子ども達が学校に通えるようになることや、成人女性の識字率が向上することを目標としています。

学びの場の建設



識字と生活技術の授業



職業訓練の実施



教員・寺子屋運営者の研修



教材づくり

